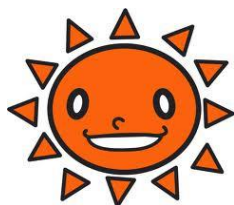
簡易取り扱い説明書

『FLIR Exシリーズ』

製品特長

- 従来機種約2倍の広角レンズ採用！
- 特許技術MSX搭載で鮮明な画像
- 軽量、耐衝撃ボディ（2m落下試験クリア）

注意事項

太陽や高出力レーザーを見ない

素子が焼けつき、温度測定ができなくなります。

また素子の焼きつきについては

保証範囲外となりますので、ご注意ください。

取扱い

持ち運び時はレンズカバーを閉める

レンズは直接触らない、濡らさない

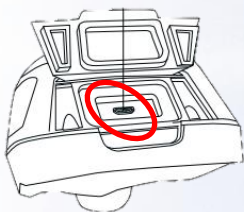
カメラ使用時はストラップをつける

詳しい取扱説明書

付属オリジナルDVDを参照してください

使用準備

A・バッテリーを入れる

→の部分がバッテリの取り外しボタンになっています。
本体からバッテリを外す場合はボタンを押し、取り付ける際は
そのまま押し込みます。

カメラ上部

B・充電する

カメラのゴムカバーを開けて、ＡＣアダプタのコネクタを
充電ジャックに差し込みます。充電状況はディスプレイ上に表示されます
＊充電時間2.5時間　動作時間４時間

備考

FLIR　Exシリーズはデータの保存に内臓メモリを使用しています。
撮影した画像の取り出し、転送は付属のSBケーブルを使用して行います。

撮影

手順

シャッターカバーをスライドさせる

電源ボタンを押す

シャッターボタンを押す

フォーカスは不要です

☆温度精度の高い測定を行うには

放射率の設定が必要です。

簡単な説明は「精度を高める測定」の項目

詳しくは付属DVDの

取り扱い説明書

「赤外線について」を参照して下さい

各ボタンの機能

メニュー表示　選択

●部を押します

→でメニューを選択します

再生

撮影した画像を呼び出します

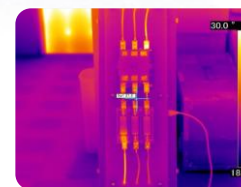
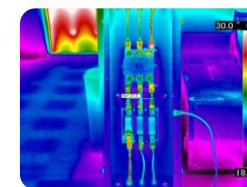
キャンセルボタン

電源ボタン

操作例　パレット色変更

●を押しメニューを表示させる→画面下に表示されるアイコンから

「カラー」を選択　メニューに表示される色

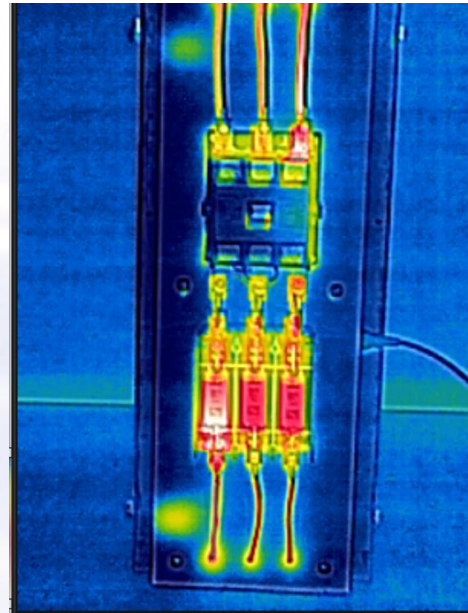
（アイアン、レインボー等）を選択　●を押して決定

アイアン色

レインボー色

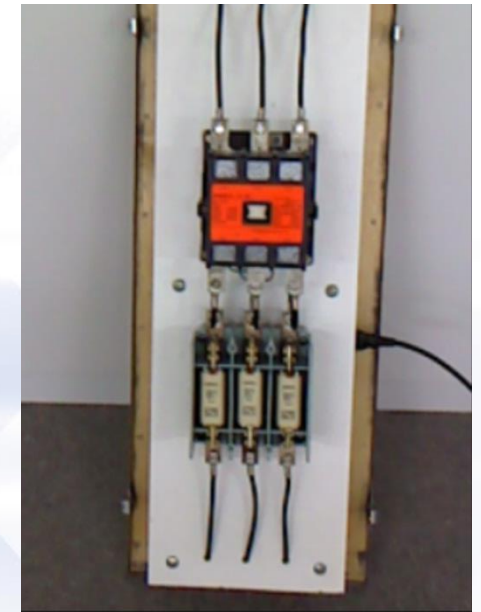
モードの説明

モードを変更するには・・・

を押しメニューを表示させせます。

イメージモードを選ぶと

様々な画像合成モードを選択できます。

MSXモード

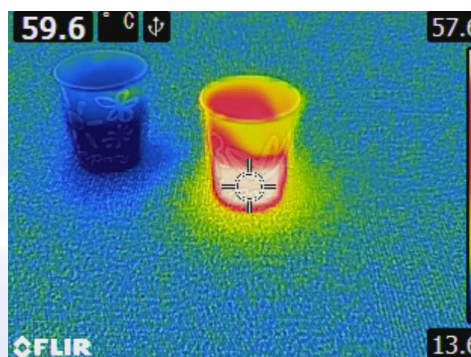
熱画像+可視画像合成

デジカメモード

温度も表示可能です

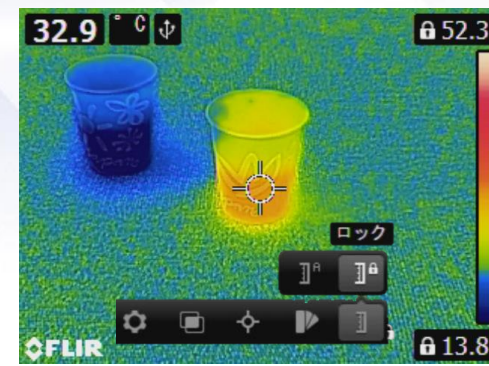
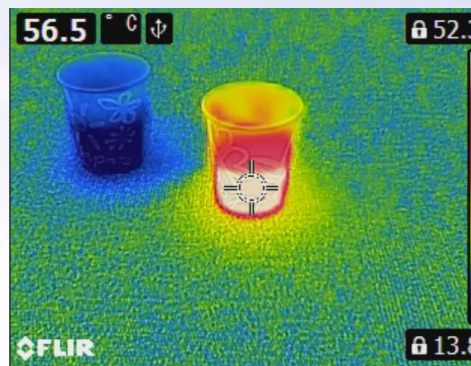
便利な機能① E4/E5

自動モード

環境によって温度に対する表示色が変わります。右のコップは33.7℃
56.5℃と温度差がありますが
同じ色で表示されています。
デフォルト設定の測定モードです

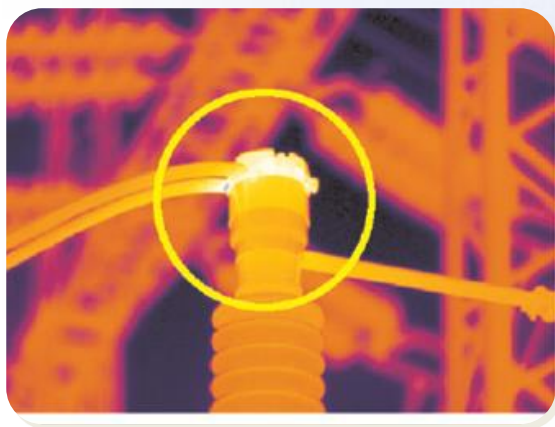
59℃のお湯を測定

33.7℃のぬるま湯を測定

ロックモード

温度に応じて色が固定される為
測定環境に左右されずに
機器の相対比較が可能です。

＊操作　メニューの温度スケールから『ロック』を選択します

便利な機能② E6/E8

自動モード

自動的に被写体の最高・最低温度を感知して
最適な表示温度範囲をカメラが設定します
下の画像ではカメラが背景の温度を検知している為
表示する温度幅が広くなり、遮断機全体が
加熱しているように見えます

手動モード

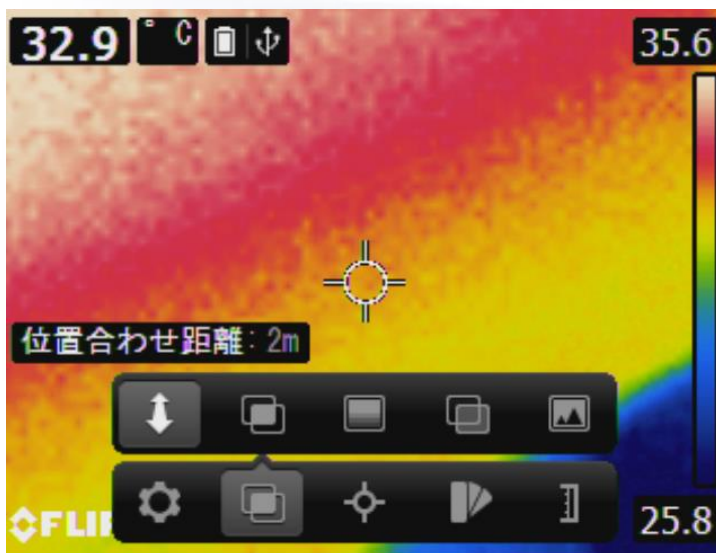
測定温度範囲を手動で設定します
特定部位の温度を詳細に表示する際に有効です
下の画像では温度幅を絞ることにより
測定したい箇所の
温度分布がわかりやすくなっています

＊操作　メニューの温度スケールから『自動』を選択します。最高・最低の温度表示部が白色反転し
カメラの■ボタンの左･右（最高温度・最低温度の選択）、上・下（温度値の設定）で
数値が設定できるようになります

便利な機能③

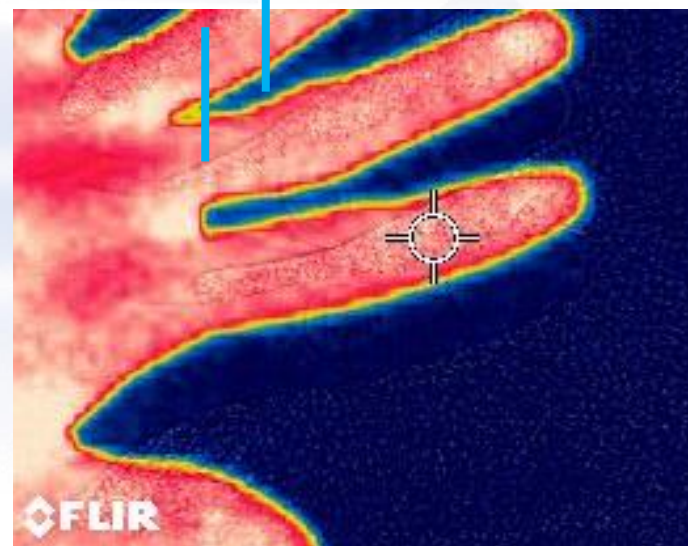
画像合成の位置合わせ

撮影距離に応じて、MSXモードにおける

画像合成の位置を設定します

合成例

可視画像の輪郭と熱画像の輪郭が重なるよう

撮影距離に応じた距離を設定します

下の画像は輪郭がずれている例です

精度を高める測定

測定精度を高めるには？

精密な温度計測を行うには放射率というパラメータを設定します。
一般的には被写体表面の光沢がなく（マット）・表面がざらついている粗いものが測定が容易で、つやのあるもの（光沢・表面がなめらか）は測定精度が低下する傾向にあります。

放射率の簡単な設定

被写体の見かけの状況から判断し、カメラにプリセットされた項目を選択します　素材別の放射率は取り扱い説明書巻末にも記載されています

設定の仕方

メニュー⇒『設定』を選択⇒『測定パラメータ』を選択
『放射率』の値を設定する